

No	テーマ	内容	対象者			大学等名称	学部	氏名	問合せ先	
			小学生	中学生	高校生					
1	養育環境が子供の脳発達に及ぼす影響 (担当:三木崇範、鈴木辰吾、太田健一、大給日香里)	当研究室の研究データを踏まえ、母子分離に焦点をあてて幼少期の養育環境の重要性を説く。	—	—	○	香川大学	医学部	教授	三木 崇範	香川大学 地域連携推進課
2	アルコールが脳に与える影響 (担当:三木崇範、鈴木辰吾、太田健一、大給日香里)	妊婦が摂取するアルコール(飲酒)により子供に精神神経発達遅滞をはじめ様々な影響をもたらす。これを胎児性アルコール症候群と称している。研究結果をもとに脳の発達に及ぼす影響について概説する。	—	—	○	香川大学	医学部	教授	三木 崇範	香川大学 地域連携推進課
3	免疫細胞マクロファージによる異物取り込み機構	顕微鏡観察により明らかになったマクロファージの貪食制御タンパク質の細胞内動態について紹介する	—	—	○	香川大学	医学部	講師	江上 洋平	香川大学 地域連携推進課
4	蛍光ラベルにより見えてくる細胞内の世界	無色透明な細胞内の構造物を様々な蛍光標識を施し蛍光顕微鏡で観察を示すことで、細胞内小器官の形態や活発な動きについて解説する	—	○	○	香川大学	医学部	助教	川合 克久	香川大学 地域連携推進課
5	「こころ」のなりたちを探るーそのメカニズムと調べ方	私たちの「こころ」の住まいである脳がどのようにできているか、どのように調べるのか、どのようなことで病気になり、どのようにして治し方を探っていくのか、概説します。	—	—	○	香川大学	医学部	教授	山本 融	香川大学 地域連携推進課
6	生理学者と学ぶからだの仕組みと不思議 (担当:平野勝也、倉原琳、山下哲生、橋本剛)	4名の教員により、心臓、呼吸、代謝など人体生理学に関する基礎知識を講義する。健康を考える上で生理学の重要性について理解を深める。	—	○	○	香川大学	医学部	教授	平野 勝也	香川大学 地域連携推進課

7	生理学者と学ぶ細胞の仕組みと不思議 (担当:平野勝也、倉原琳、山下哲生、橋本剛)	4名の教員により、細胞生物学の視点から人体のはたらきとその仕組みに関する基礎知識を講義する。健康を考える上で生理学の重要性について理解を深める。	-	○	○	香川大学	医学部	教授	平野 勝也	香川大学 地域連携推進課
8	なぜ、人はがんになるのか(がん細胞発生メカニズム)	正常細胞からがん細胞が発生するまで、遺伝子レベルでの変化に着目し解説します。また、そのような遺伝子変化を起こす要因やその予防についての話も盛り込みます。	○	○	○	香川大学	医学部	教授	横平 政直	香川大学 地域連携推進課
9	おこげを食べると本当にがんになるのか?(食品の安全について)	食品の安全性について、食品添加物の安全性・危険性を含め、わかりやすく解説します(演者は「内閣府食品安全委員会添加物調査会の専門委員」です。)注意すべき食品等についても紹介します。	○	○	○	香川大学	医学部	教授	横平 政直	香川大学 地域連携推進課
10	精神疾患、認知症など	その病気の特徴、症状、診断や治療など	○	○	○	香川大学	医学部	教授	角 徳文	香川大学 地域連携推進課
11	認知症の病態解明 (担当:上野正樹、千葉陽一)	当研究室の研究データを踏まえ、認知症の病態解明の重要性を説く。	-	-	○	香川大学	医学部	教授	上野正樹	香川大学 地域連携推進課
12	もっとよく傷を治すには (担当:村上龍太)	基本的な創傷治癒学と、臨床経験から家庭での傷の処置を講義する	○	○	○	香川大学	医学部	助教	村上龍太	香川大学 地域連携推進課

13	臓器提供・臓器移植について	臓器提供に関する啓発です。	-	○	○	香川大学	医学部	病院准教授	祖父江 理	香川大学 地域連携推進課
14	1)たばこの健康被害について 2)静脈血栓塞栓症について 3)ダイバーシティ	1)タバコの健康被害について(小学生・中学生向け) 2)静脈血栓塞栓症(下肢静脈血栓症と肺塞栓症)について(一般向けの健康講座) 3)医師という仕事:女性の立場から(中学生、高校生向け)	1)○	1)3) ○	3)○	香川大学	医学部	講師	石川 かおり	香川大学 地域連携推進課
15	①がんについて、②放射線について、③新しいがん治療の進歩について(担当:柴田徹、高橋重雄)	①がんについて学び、がんを通して命の大切さを知る ②放射線について正しく理解する、③がん治療の進歩。医学・医療について(受講対象者に応じて内容の変更は可能です)	○	○	○	香川大学	医学部	教授	柴田 徹	香川大学 地域連携推進課
16	すぐにできる！心肺蘇生	一般市民や子どもたちを対象に、すぐに活用できる心肺蘇生法を分かりやすく教えます。人形やデモのAEDを使って、心肺蘇生法を経験してみましょう。	○	○	○	香川大学	医学部	看護師長	國方 美佐	香川大学 地域連携推進課
17	ウイルスや細菌などの外敵から自分のからだを守る 仕組み-免疫-の研究について	免疫は外敵から自分を守るだけでなく、アレルギーなどの病気を起こす原因にもなります。免疫の仕組みについて解説します。	-	-	○	香川大学	医学部	教授	星野 克明	香川大学 地域連携推進課
18	心肺蘇生とAED	心肺蘇生法とAEDの使用方法について説明します	○	○	○	香川大学	医学部	客員教授	辻 哲平	香川大学 地域連携推進課

19	楽しく学んで、楽しく実践、やさしい健康講座	1)糖尿病のはなし、2)運動のはなし、3)食事のはなし、4)こころのはなし、5)尿検査、便検査のはなし、6)健康診断のはなしの中から選択	-	○	○	香川大学	医学部	准教授	宮武 伸行	香川大学 地域連携推進課
20	人生100年のための未来医療	幸せに長生きするために必要なことや、新しい治療法の開発などを紹介します。	○	○	○	香川大学	医学部	教授	西山 成	香川大学 地域連携推進課
21	塩と健康問題	日本食に欠かせない食塩。その摂り過ぎが起こす健康問題や病気について、最先端の研究状況を紹介します。	○	○	○	香川大学	医学部	助教	北田研人	香川大学 地域連携推進課
22	小児生活習慣病予防健診を通じて家族を心筋梗塞から守る(こどもについて)	香川県小児生活習慣病予防健診を通じて家族性高コレステロール血症を早期診断・治療を行う取り組みについて説明し、こどもが将来心筋梗塞にならないための治療の重要性について概説する。	-	○	○	香川大学	医学部	助教	近藤園子	香川大学 地域連携推進課
23	小児生活習慣病予防健診を通じて家族を心筋梗塞から守る(おとなについて)	香川県小児生活習慣病予防健診を通じて家族性高コレステロール血症を早期診断・治療を行う取り組みについて説明し、おとなを心筋梗塞から守るための治療の重要性について概説する。	-	○	○	香川大学	医学部	助教	松永圭司	香川大学 地域連携推進課
24	「医療という職業について」	医療に関わる種々の職種(病院内・病院外)の説明やそれぞれの関わり方、協調など	○	○	○	香川大学	医学部	客員教授	臼杵尚志	香川大学 地域連携推進課

25	「医療技術とその進化や最新の技術、近未来の技術(機器の進化を含む)について」	太古から現在に至るまでの医療の進化やこれに関わった方々の努力・苦労、現在の医療技術への関り、最新の医療技術と医療機器の関係と近未来に向けた展望・現在の研究	○	○	○	香川大学	医学部	客員教授	臼杵尚志	香川大学 地域連携推進課
26	「命について」	生命の成り立ちとかげがえのなさ	○	○	○	香川大学	医学部	客員教授	臼杵尚志	香川大学 地域連携推進課
27	「特殊な環境下での医療」	十分な医療体制を整えることができない状況の中での医療のあり方	○	○	○	香川大学	医学部	客員教授	臼杵尚志	香川大学 地域連携推進課
28	脳と神経の機能と脳の病気	脳や神経の機能を説明します。また、乳児から高齢者にいたるまでの脳に生じる病気について、紹介するとともに香川大学医学部附属病院で行っている最新の検査(特に香川大学でしか行っていない各種のPET検査)や最新の医療機器を用いた治療について紹介します。	-	○	○	香川大学	医学部	教授	三宅啓介	香川大学 地域連携推進課
29	子供のがんのお話	小児期の病気での死因のトップである小児がんについて大人のがんと比較して説明します。	-	-	○	香川県立保健医療大学	保健医療学部	教授	岡田仁	香川県立保健医療大学 事務局 教務・学生担当
30	【体験型】 「あなたはお酒が飲めるタイプ？ 飲めないタイプ？」 お酒は20歳になってから！	お酒を飲んですぐ赤くなる人と、いくら飲んでも変わらない人がいますが何故なのでしょう？アルコールを分解する酵素の働きには個人差があります。アルコールパッチテストでお酒が強い体質か弱い体質かを確認してみましょう。また、未成年の飲酒が何故いけないのか、20歳になってからのお酒の付き合い方についてもお話します。	-	○	○	徳島文理大学	香川薬学部	教授	野地 裕美	徳島文理大学高松駅キャンパス 地域連携センター

31	【体験型】 DNA 模型を自分で作ってみよう (生体高分子の構造と機能を理解する)	DNA が生物の遺伝情報を伝える役目を担っていることや、らせん構造であることはよく知られている。実際、どのように二重らせんが組み立てられるのか？この構造が、なぜ遺伝に必要なのか、自分でDNA模型を作りながら理解しよう。そして、らせん構造から、どのように生体を作るタンパク質などの設計図が取り出されるのか考えてみよう。子供のころ作った紙飛行機のように、誰でも簡単に作れるDNA 模型を作ろう。きっと本物のDNA が体で感じられるはずだ。	—	—	○	徳島文理大学	香川薬学部	教授	山口 健太郎	徳島文理大学高松駅キャンパス地域連携センター
32	「私たちの体を守る免疫」の仕組み	私たちの周りには、ウイルスや細菌などの病原体が多数存在し、私たちの健康を脅かしています。「免疫」とは、これらの病原体から私たちを守る、重要なしくみです。「免疫」が正常に働かないと、ウイルスや細菌などがからだの中で増殖し、たちまち病気になってしまいます。一方、「免疫」が異常に働きすぎると、花粉症などのアレルギーや関節リウマチなどの自己免疫疾患を発症する原因になります。このように、私たちが健康な生活をおくるためには「免疫」が正しく働くことがとても重要ということがわかります。本講義では、このような「免疫」のしくみに関わる様々な免疫細胞の働きを紹介しながら、「免疫」のしくみの全体像を概説したいと思います。	—	○	○	徳島文理大学	香川薬学部	教授	大岡 嘉治	徳島文理大学高松駅キャンパス地域連携センター
33	医薬品および化学物質による血中甲状腺ホルモン濃度の低下に薬物代謝酵素が関与するとされる定説は本当なのか？	一般に、医薬品や化学物質による血中甲状腺ホルモン、サイロキシン濃度の低下は、肝臓の薬物代謝酵素が誘導されることにより、サイロキシンの代謝を亢進し、その胆汁排泄量が増加することによって考えられています。しかし、我々は、全く異なる新しいメカニズムを発見しました。教科書に書かれていることでも、疑問に思い、研究することにより、真実が見えてきます。このような実験の面白さを紹介します。	—	—	○	徳島文理大学	香川薬学部	教授	加藤 善久	徳島文理大学高松駅キャンパス地域連携センター
34	「香り」を作ろう。 「臭い」を消そう。 「におい」物質と体の仕組み。	「におい」は私たちの身の回りの様々な場所に存在します。私たちはその「におい」の種類を嗅ぎ分けることで、必要なものを見つけたり、危険なもの避けたりしています。また、人工的に作り出される「香り」は芳香剤や柔軟剤、さらには「アロマセラピー」と呼ばれる病気の治療法としても使われています。消臭剤は嫌な「臭い」を消してくれます。そもそも「におい」とは一体なんだろう。人はどうやってそれを感じるのだろう。このような疑問について優しく解説します。また、いい「香り」のする物質を化学的に合成したり、「臭い」を化学的に消したりする体験をします。本講義は講義と実験をセットで行います。	○	○	○	徳島文理大学	香川薬学部	准教授	江角 朋之	徳島文理大学高松駅キャンパス地域連携センター
35	オートファジー (細胞のリサイクルシステム)	オートファジーは、細胞内の不要なタンパク質や細胞内小器官などを分解する仕組みです。オートファジーの機能不全は、様々な病気につながります。本講義では、オートファジーのメカニズムと病気との関わりをわかりやすく解説します。	—	○	○	徳島文理大学	香川薬学部	准教授	桐山 賀充	徳島文理大学高松駅キャンパス地域連携センター
36	はたらかない免疫の不思議	免疫は、危険な異物である病原体やがん細胞などを排除して、からだを病気から守るしくみです。一方、食べ物や腸内共生細菌など、私たちのからだに必要な異物は、免疫反応によって排除されることはありません。しかし、本来ならば免疫が働かない異物に対して過剰に免疫反応が起こると、アレルギーを発症してしまいます。本講義では、免疫のONとOFFをコントロールするしくみと、アレルギーの関係について解説します。	—	○	○	徳島文理大学	香川薬学部	講師	中妻 彩	徳島文理大学高松駅キャンパス地域連携センター

37	ワクチン ～からだ防衛軍を作ろう！～	感染症を予防するワクチン接種は、私たちの体に備わった免疫記憶を利用した治療戦略のひとつです。免疫系は、戦ったことがある病原体を記憶し、再び侵入してきた同じ病原体を速やかに排除するしきみを備えています。本講義では、免疫系～からだ防衛軍～による感染防御と、それを利用したワクチンのしきみを解説し、最新のワクチン開発について紹介します。	—	○	○	徳島文理大学	香川薬学部	講師	中妻 彩	徳島文理大学高松駅キャンパス地域連携センター
----	-----------------------	---	---	---	---	--------	-------	----	------	------------------------